

水稲品種「モチミノリ」について

1. 試験のねらい

本県水稲奨励品種の『マンゲツモチ』は中生の良質糯品種として、高冷地を除く県下一円で広く栽培され、昭和46年には栽培面積1,795 haに達したが、その後モチ米の需要の減少や、耐倒伏性、耐病性（いもち病、縞葉枯病）、収量性が劣ることなどから、平成2年には456 haまで減少した。しかし、他用途利用米生産現場から栽培性に優れ、収量性の高い糯品種の要望が強い。そこで、縞葉枯病耐病性が極強で、耐倒伏性、いもち病耐病性、収量性に優れ、食味の良い品種を選定するため、昭和62～平成2年の4年間にわたり本試験を実施した。

2. 試験の経過

本品種は、農林水産省農事試験場（現農業研究センター）において、昭和56年に「喜寿糯」を母とし、「関東125号」を父として人工交配を行い、縞葉枯病抵抗性固定系統の中より選抜固定されたものである。62年F₇で「関東糯148号」の系統名を付し、平成2年に水稲農林糯301号として農林登録され、「モチミノリ」と命名された。

本県においては、昭和62年から配布を受け、予備調査、本調査、現地調査等で各種特性、地域適応性を検討した結果、成績が良好であったので、平成2年に奨励品種に採用した。

3. 特性の概要

(1) 形態的特性

モチミノリの稈長はマンゲツモチより10cm程度短く、月の光とほぼ同程度である。穂長はマンゲツモチと同程度で着莖は中である。穂数はマンゲツモチよりやや多く偏穂重型に属する。葉色はやや濃く、出穂後の草姿は止葉がやや直立し良好である。稈の太さは中、剛柔はやや剛である。稀に短芒を生じ、ふ先色は赤褐、顔色は褐である。脱粒性は難である。

玄米の粒形はマンゲツモチに比べやや長く中、粒大も中、玄米千粒重はやや重い。

(2) 生態的特性

出穂期はマンゲツモチより1～4日遅いが、成熟期は同期の中生の晩の糯種で、月の光と出穂期・成熟期ともほぼ同期である。

耐倒伏性はマンゲツモチに優り、中程度である。いもち病真性抵抗性遺伝子型はPi-kと推定され、葉いもちはマンゲツモチ並であるが、穂いちはやや強く、いもち病耐病性は中である。縞葉枯病にはModanに由来する抵抗性遺伝子を持ち、極強である。白葉枯病及び紋枯病はマンゲツモチと同程度である。穂発芽はマンゲツモチよりややし難く、やや難に属する。

(3) 収量及び品質

収量はマンゲツモチより多収である。

玄米の光沢はマンゲツモチと同等かやや良く、見かけの品質もマンゲツモチよりやや良く、良好である。搗精歩合はマンゲツモチよりやや高い。

餅の食味はきめがこまかく、粘りもありマンゲツモチ並～良い。アミログラム特性および、テクスチュログラム特性ともマンゲツモチと同等である。切り餅および煎餅の加工適性はマンゲツモチと同等かやや良いと思われる。

4. 普及地帯および栽培上の留意点

(1) 普及地帯は、県北部中山間地帯を除く県下全域で、普及見込み面積は650 ha。

(2) 本種の耐倒伏性は中程度であり、極端な基肥多施用は避け、星の光と月の光の中間程度とし、通常どおりの穂肥施用を行う。

(3) 成熟期が月の光並に遅いので、県北部や県南部の晩植では移植時期が遅れないように注意する。

(4) 籾色の褐色が強いため、成熟期の判定に注意し、適期刈りに努める。

5. 調査結果

表-1 農業試験場における成績

試験名	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (/㎡)	倒伏	病害の多少		
								穂いもち	紋枯病	縞葉枯病
標準	モチミノリ	8.14	9.30	82	22.3	357	0.5	0.3	0.3	0
	マンゲツモチ(比)	8.10	9.30	91	22.0	345	1.2	1.7	1.0	1.8
	月の光(参)	8.14	9.28	81	21.6	329	0	0.3	1.0	0
晩植	モチミノリ	9.2	10.22	85	21.0	335	0.4	0.5	0.3	0
	マンゲツモチ(比)	9.1	10.22	93	20.5	322	1.8	1.5	0.7	2.3
	月の光(参)	9.2	10.23	83	19.9	317	0	0.1	0.5	0

試験名	品種名	精玄米重 (kg/a)	玄米千粒重 (g)	品質	粒形	光沢	特性検定			
							葉いもち	穂いもち	倒伏	穂発芽
標準	モチミノリ	56.6	20.5	3.5	中中	やや良	中	中	中	やや難
	マンゲツモチ(比)	51.3	20.3	4.8	中円	中	中	やや弱	弱	中
	月の光(参)	56.3	21.1	2.1	中中	やや良	やや強	強	強	やや難
晩植	モチミノリ	47.3	21.0	3.0	中長	やや良	-	-	-	-
	マンゲツモチ(比)	41.7	20.4	4.5	中円	やや良	-	-	-	-
	月の光(参)	48.5	21.8	3.0	中長	やや良	-	-	-	-

- 注 1. 標準は昭和62~平成2年の4か年、晩植は昭和63~平成2年の3か年平均
 2. 標準：稚苗箱育苗 5月7~10日植 23.8株/㎡、4本/株、N：0.6kg/a、追肥2回
 晩植： " 6月19~20日植 " " "、N：0.7kg/a、追肥1回
 3. 倒伏および病害の多少は、0：ム、1：微、2：少、3：中、4：多、5：甚。
 4. 品質は、1：上上~9：下下。
 5. いもち病特性検定は烏山いもち病検定試験圃場成績で菌系は037。

表-2 食味試験

生産年	品種名	総合評価	外観	滑らかさ	味	粘り	歯ごたえ	基準品種： マンゲツモチ
昭和63年	モチミノリ	0.13	0.63	0.63	0.00	0.25	-0.25	農試職員 8名
昭和63年	モチミノリ	1.56	0.89	1.11	0.67	0.67	-0.44	農試職員 9名
平成2年	モチミノリ	1.00	0.93	1.29	0.14	0.36	0.36	農試職員 14名

注. 試験方法は搗精歩合約90%、餅つきはスチーム式餅つき機による。
 評価基準は基準品種を0とし、+3(極端に良い等)~-3(極端に悪い等)の7段階。

(担当者 育種部 小島 隆)